

長野県自立支援協議会フォーラム

「地域生活支援拠点等の今 ～事例を通じて～」

～松本圏域の取り組みの現状について～



松本圏域障害者総合相談支援センター あるぷ

所長・機能強化コーディネーター 海老原 晴香

山形村社会福祉協議会

地域福祉事業部長・相談支援専門員 田中 雄一郎

松本圏域の状況

現状

圏域内総人口 (2018.4.1)	424,441 人
身体障がい児・者数	18,302 人
知的障がい児・者数	3,660 人
精神障がい児・者数	4,260 人
小児慢性特定疾患認定者数	480 人
特定疾患認定者数	2,935 人

※障がい児・者数は、手帳所持者

発達障がいと診断を受けた児童・生徒数(小・中学校)
(2018.9.1) 1,919人

人口 2018.4 現在

松本市	240,956 人
塩尻市	66,979 人
安曇野市	94,871 人
麻績村	2,667 人
生坂村	1,720 人
山形村	8,379 人
朝日村	4,392 人
筑北村	4,477 人
合計	424,441 人



(グレータス:塩尻市)

松本圏域の特徴(強み)

□ 医療的ケア児・者への支援

- 3か所の医療機関が、連携会議を定期的を開催しており、そこで緊急時の受け入れやレスパイト入院、短期入所の仕組みや受け入れについて検討をしている。

□ 精神障がい者への支援

- 圏域内に8つの精神科病院があり、緊急時を含め相談や受け入れについて対応が可能。
- 保健福祉事務所との連携が取れる。

松本圏域の特徴(強み)から出される可能性

医療的ケア児

(現在) A病院からの退院に当たり、B病院、C病院の3病院で退院後の短期入所、緊急時の受け入れについての話し合いをしている。

(ニーズ) 地域支援者に医療側からの情報発信ができ、生活介護事業所や児童発達支援事業等でもご本人や家族が安心して過ごせる体制の確保に向けた取り組みの可能性がある。

(今後に向けて) 今できている事例から、圏域全体に広げられるように、体系化していきたい

精神科病院の役割

(現在) 知的障害者の不応答やパニック時の緊急受け入れ先。行動障害のある方の緊急受け入れ先。

(ニーズ) この方たちの地域生活移行の促進と受け入れ先や生活の場の確保。

入院ではない緊急時受け入れ先の確保

人材育成、地域啓発活動の実施

(今後に向けて): 精神科病院との連携による地域生活移行の促進、協働

松本圏域の施策の方向性等

地域生活を支援・充実するため、各市町村に設置・整備・確保を基本とする次の体制については、地域の連携や地域のバックアップ体制の推進等の観点から、圏域又は複数の市町村での対応を関係者と協議・検討します。

- 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築
- 地域生活支援拠点等の整備
- 障がい児支援の提供体制の整備等

地域生活支援拠点等整備 運営方針

- 障がいが重くても高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮し続ける事ができるよう、松本圏域全体で支える仕組みを整えていきます。拠点については面的整備を行っていきます。そのために、圏域内の行政・相談支援センター・相談支援事業所・サービス提供事業所など関係者で平成32年4月を目標に検討を重ねていきます。

- 面的整備型

松本圏域では、現在3つの総合相談支援センターを置いて広い範囲を見てくるようにしてきた経過があるため、多機能拠点整備で行うのは無理に等しいと判断。今までと同様の形で行う。

検討状況

- 松本圏域では、地域生活支援拠点等の整備に必要な5つの機能をそれぞれチーム分けをして協議・内容を行っている。現在、整備を行う上で新たに必要となる予算について検討中。

必要な機能の具体的内容について 1



①相談

- 基幹センターを新設する（場所は検討中）
- 休日・夜間の緊急時の相談・対応
- 拠点整備コーディネーターの配置
- 自立支援協議会の事務局を置く

②体験の機会・場

- ひとり暮らし体験事業の創設（環境整備事業・体験支援事業）
について検討中

必要な機能の具体的な内容について 2

③緊急時の受け入れ

- 緊急時短期入所のための空床確保事業の検討中
- 緊急相談業務についての検討中

④専門的人材の確保・養成

- 研修の企画について検討中
- 研修費の予算の提案
- 人材育成ビジョン作成の話題提供



(あづみ～ず:安曇野市)

必要な機能の具体的内容について 3

⑤地域の体制づくり

- 地域にむけての情報発信・啓発
- 自立支援協議会のホームページのリニューアルに向けて検討中
- 面的整備が円滑に進められるための地域づくりについて検討
- 協議会の仕組みやあり方の検討



(カラットリン:生坂村)

事例「強度行動障がい者の緊急SS」

- Aさん:18歳 A1 自閉症スペクトラム 行動援護・移動支援利用
- 家族構成:両親(母が主な介護者)、姉(大学生・別居)弟(高校生・同居)
- 高等部卒業後:家族は入所希望だが現在は在宅支援対応

生活介護事業所や自宅での破壊行動が起こった場合のクールダウンの場として緊急のSS先が圏域内で見つからず、圏域外の施設を利用したり、精神科病院への措置入院などで対応している。

⇒ 地域生活支援拠点等の整備がされれば・・・

現在のサービス利用状況

(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)
行動 援護 (4h)	移動支援 (2.5h)		行動 援護 (4h)			

松本圏域の「伸びしろ」「可能性」



(アルプちゃん:松本市)

・課題はたくさん・・・

指定特定相談支援事業所も指定一般相談支援事業所も足りない...

社会資源ももっと必要...

職員のスキルアップ！！人材育成！！

自立支援協議会のあり方...

でもその分、伸びしろや可能性があるということ！！

他圏域から松本圏域で活かせることを学んでいきたいと思えます。よろしくお願いします。

松本圏域「面的整備」 地域生活支援拠点等の整備イメージ

